

ナシ黒星病菌の薬剤耐性化

ナシ黒星病防除に使用されているベンゾイミダゾール剤(商品名:トップジンM水和剤など)とDMI剤(商品名:ルビゲン水和剤、オーシャイン水和剤など)について、黒星病菌の感受性を調査した。



図1 ナシ黒星病の病(葉)



図2 ナシ黒星病の病(幼果)

その結果、ベンゾイミダゾール剤については5圃場から採集した173菌株、すべてが耐性菌であった。耐性程度も強く、薬剤の防除効果は期待できないと思われる。

DMI剤については、5圃場の耐性菌率は16.7~35.5%、平均27%であった。耐性程度は弱く、薬剤の効果は十分期待できると思われる。しかし、今後使用回数が増えると、さらに耐性化が発達する可能性がある。

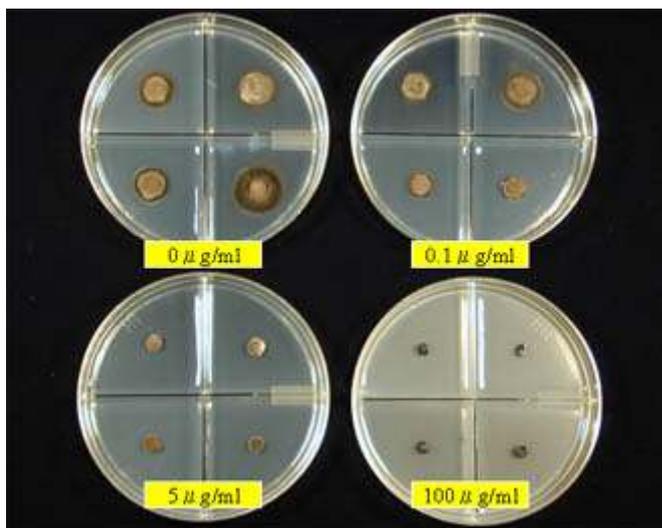


図3 ナシ黒星病菌のDMI感受性検定

対策

- 黒星病に対するベンゾイミダゾール剤の使用は中止する(輪紋病に対しては効果あり)。
- DMI剤の使用は年間3回以内とし、連用しない。

問い合わせ先 徳島県果樹研究所県北分場 TEL088-694-2712、FAX088-694-2526

[ホームページへ](#)